

第 1 回 相馬市総合計画審議会 議事録

日時：令和 8 年 8 月 5 日（水） 午後 1 時 30 分～

場所：相馬市役所 第 2 委員会室

出席者：

会長：佐々木 康文委員（福島大学教授）

副会長：松本 晴美委員（相馬商工会議所女性会会長）

委員：山本 留美子委員、草野 清貴委員、菊地 翔也委員、渡邊 孝喜委員、高山 慎也委員、志賀 嘉津美委員、木下 久美委員、高坂 あや子委員、上田 佳子委員、伊東 千恵子委員、木下 晋宏委員、菅野 航大委員

事務局：相馬市企画政策部 企画政策課

1. 開会

2. 市長あいさつ（概要のみ）

阿部 勝弘 相馬市長：日頃より市政運営に多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本日は、「第 6 次相馬市長期総合計画」の策定にあたり、委嘱状をお渡しさせていただきましたが、審議会委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

今回の新計画は、10 年ぶりの見直しとなります。現行の「相馬市マスタープラン 2017」は震災から 5 年が経過した時期に策定されたこともあり、主に復興を重視した内容が中心となっています。

しかしこの 10 年間に於いて、市は人口減少という課題に直面する中で「地方創生」という重要なテーマに加え、令和元年東日本台風、令和 3 年・4 年の大地震、さらにはコロナ禍といった予測し得ない外的要因にも直面しました。

計画が予定通り進展した部分もあれば、これらの要因により困難が生じた部分もあります。そのため、新たな計画策定に際しては、これまでの進捗状況や課題を検証・分析するとともに、市民の皆様へのアンケートで現在の市に対する認識や将来像について意見を伺いました。各委員には、市民の意見と一致する点や、それぞれの立場に基づく多様な視点からのご意見を期待しています。

これからの 10 年では、予測可能な「連続的な変化」だけでなく、コロナ禍のような予測困難な「非連続的な変化」が起こることも予想されます。そのため、こうした将来を想像・予測しつつ、計画を策定していく必要があると考えています。

これまで市では、高校生を含む 123 名の市民が参加するワークショップを 4 回開催してまいりました。また、本審議会では、委員 22 名のうち 10 名が女性であり、公募で大学生 4 名にも委嘱させていただいております。これにより、これまで行政に届きにくかった女性の声や、次代を担う若い世代の声も計画に反映させることができるものと考えています。

この新しいメンバーによる審議会が、10 年後の相馬市、さらにその先の将来を見据えた活発な議論の場となることを期待しています。全 4 回の審議を通じ、皆様の知見と市民の想いを結集し、より良い未来を

描くため、ご協力をお願い申し上げます。

3. 会長及び副会長選出

相馬市総合計画審議会条例第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により以下のとおり決定。

会長に佐々木 康文委員（福島大学教授）

副会長に松本 晴美委員（相馬商工会議所女性会会長）

4. 諮問

阿部 勝弘相馬市長より、佐々木会長へ「相馬市第6次総合計画案」に関する諮問書を手交。

5. 審議

(1) 事務局説明

審議会事務局：資料2「総合計画審議会について」、資料3「マスタープラン2017の検証と今後の課題について」に基づき、これまでの10年間の実績、数値目標の自己評価（◎25、○7、×24項目）、少子高齢化と社会減に伴う人口減少の現状、市民・中高生・職員アンケートの結果および優先課題について要点を説明。

(2) 質疑応答

佐々木会長：ただいまの事務局の説明について、何かご質問やご意見がありましたら出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

【資料3 P.7 魅力発信事業に関するやり取り】

菅野委員：7ページの、市の特産品のPRというところで、魅力発信事業についてどの魅力をどう発信しているのかというのがよく分からなかったので、具体的にお願いします。

審議会事務局：こちら、7ページに実際映っている写真が大食いアイドルでインフルエンサーのもえのあずきさんです。相馬の魅力発信事業としまして、相馬の食べ物や観光地を、実際もえのあずきさんに相馬に来ていただいて、SNSや、Instagramなどで情報発信をしていただきました。

菅野委員：ありがとうございます。

【職員アンケート回答率に関するやり取り】

木下（久）委員：アンケートの回答率が、中高生は学校経由で配布されているので高い回答率で、市民もそれなりの回答率ですが、それに比べて市職員の回答率があまりにも低いことに驚いています。アンケートの内容も含めた上で、今後の相馬市の10年間の計画を考えるにあたり、市職員の意識や姿勢に

ついて疑問を感じます。回答期間を延長したり、回答の催促をしたりするなどの努力は行わなかったのでしょうか。

審議会事務局： アンケートの実施時期が、年度末の業務負荷が高い時期と重なり、回答率に影響してしまったものと考えています。何度か回答期間を延長して、まだ回答していない職員は回答してくださいという形で、皆さんに周知を行い、課長会等を通じての働きかけも行ったところです。また、アンケート内容のほとんどが自由記述形式であり、回答にあたってのハードルが高かったことも、回答率が 38%と低くなってしまう原因と考えています。

佐々木会長： アンケートの設計自体が若干自由記述が多くて、時間がかかるものだったということと、あとちょうど年度末にかかっていたというところで、こういう数字が出てしまったということですね。しかし、今意見があったように、当然、努力していただいた方がいいと思いますので、今後の課題にしていいただければいいのかなと思います。ありがとうございます。

【公共下水道接続率に関するやり取り】

木下（晋）委員： 14 ページの暮らしやすい街づくりというところで、公共下水道接続率についてですが、地域ごとに下水を増やしているという話も聞かないし、私は石上地区に住んでますが下水道を新たに引きますという連絡はありません。接続率ということは現在進行形で進んでいると思いますが、進んでいるというお話は一切聞かないです。今ここに 89%とあるってことは、相馬の 89%が、下水道があるという風に認識してしまっていますが、いかがですか。

審議会事務局： 下水道の接続率というのは、分母となるのが下水道が整備されている区域内的の世帯で、そのうち分子が接続している世帯の割合を指します。

木下（晋）委員： 相馬市は全域の下水整備は行わないのですか？

審議会事務局： 相馬市内でも下水を接続する地域というのは計画が決まっています、相馬市全地域ではなく区域内での接続率ということになります。石上地区に関しましては、新たに下水道区域を増やすという計画は現状、厳しいということが現実的なところです。

木下（晋）委員： そうすると、これは計画区域の中でのパーセンテージということですね。

審議会事務局： そうです。

木下（晋）委員： 分かりました。ありがとうございます。

佐々木会長： 結局、下水道の管は繋がっているが、その区域に住んでいるが、下水道に繋がらない人がまだいると。だから本管が通っているところの人の接続率を上げましょうというのが、この指標の趣旨だということですね。分かりました、ありがとうございます。

【通勤補助に関するやり取り】

伊東委員： 資料と別になりますが高校生が大学を卒業して相馬に帰ってきた時に、働く場所がなくても、今、仙台に通うのは 1 時間ほどですし、1 時間に 1 本、2 本と電車もありますので、もし仙台で就職しても相馬から通える通勤圏ですね。それをアピールして、相馬で若者たちが暮らしやすい土地や住宅を建てたりするような援助を行い、仙台に通勤できるというようなもの考えてみたらどうかなと思います。隣町の

山下とかも、仙台に皆さん通っています。土地が安いし、援助があれば、相馬に住む人が増えるのかなと。1 番良いのは相馬市に企業を持ってきて、親の世話をしながら相馬の企業で働きたいという人がいれば 1 番良いんですけど、働く場所がないため『戻ってこい』と言えないという高齢者がたくさんいますので。

佐々木会長： はい、ありがとうございます。東北の中核（仙台）が実は近くにある、そういう地の利を生かして、それに合わせた政策を打った方が良いのではないかとことですな。

伊東委員： そうです。若い人が住みやすい街、相馬を作っていただいて、そこから都市に働きに行き帰ってくる。1 時間ぐらいなら通勤圏内なので、そのような政策を取ってほしいと思います。

佐々木会長： なるほど。何か、すでにそういうことに関わっている、今後何かそういうことに関して進めようと思っているような政策等あればご紹介いただいてもいいかと思いますが。

審議会事務局： 働く場所を作るということで、企業誘致というところは進めてきたというところは皆さんご承知だと思います。今、具体的なお話があった仙台圏への通勤補助のお話だと思いますが現在は行っておりません。今後の課題ということで、基本計画の中でさらに定住や住宅取得等の支援の検討と合わせて、検討を進めてまいりたいと思います。

佐々木会長： はい、ありがとうございます。

【待機児童と奨学金による地元定着に関するやり取り】

上田委員： 資料 3 の 14 ページについて、子育て環境の整備ということで、保育所の児童の数が相馬はだいぶ減っていて、昨年も出生数は 130 人台か 140 人台と聞いていました。それなのに、まだ 10 人ほどの待機児童がいるという状況なのはなぜでしょうか。施設の方ではそれなりに充実した感じでやっていると聞いていましたが、この資料を見ると、まだ待機児童がいるという状況なんですか。

審議会事務局： こちらは、保育士の人員不足ということで、定員までの受け入れができないという状況があり待機児童が発生したということでございます。子どもは減っていますが、保育士も減ってしまっているという、そのバランスがございます。対策としましては、保育士の成り手を増やすために、保育士を目指す方向への奨学金制度といったものを実施し、資格取得後の定着を促す取り組みを行っているところでございます。

上田委員： 保育士を増やしたいということですよ。例えば奨学金制度では、せっかく仙台とかに通って保育士の資格を取ったとしても、働く時に相馬に帰ってくるのかと言った時に、相馬に帰らずにそのまま外で保育士になってしまうということも耳にしているんですけど、そういった方たちに対して、上手く誘導ができないものなのかなと思います。さらに定着する形で繋がるような、もう一歩の政策がないのかということをお考えください。

審議会事務局： 定着への取り組みとしましては、今後の移住定住への取り組みの拡充の中で、さらに魅力ある支援策、また今回の基本計画の議論の中で、検討を進めてまいりたいと思います。

佐々木会長： はい、分かりました。貴重なご意見をいただいたということで、ぜひ計画に生かしていただければと思います。ありがとうございます。

【10 年前の「まちづくり協議会」の構成等に関するやり取り】

菊地委員：青年会議所の菊地です。よろしくお願いします。3 ページで、10 年前の「相馬市まちづくり協議会」の内容で、参加者が 125 名とありますが、こういった団体のこういった方が参加されていたかという内訳を教えてください。

審議会事務局：前回の 125 名の内訳ですが、市内にある各種団体にお声をかけています。市内 70 団体から 112 名の方、そして一般公募で 13 名の方、合わせて 125 名の方に参加していただきました。

菊地委員：はい、ありがとうございます。やはり、若い人、色々な年代の方が多くいた方が色々な話ができるのかなと思いますので、次回やる時もそういった視点も参考にいただければと思います。

佐々木会長：はい、ありがとうございます。色々な方に参加していただいた方が良いですね。

【10 年前のワークショップ参加の感想に関するやり取り】

上田委員：私、10 年前一般公募で参加しました。その時、とても楽しく意見交換をさせてもらって、10 年後を見据えてということで話をさせてもらいましたが、大体採用されませんでした。10 年後こういう形で教育がなっていると良いなと。また、その頃は私の 3 番目の息子もまだ学生だったのでさらに教育に力を入れてほしいということを言ったんですけど、やっぱりちょっと人口がそこに伴わないという話もさらっとは言われたんですけど、色々な大学関係とか専門学校とかそういったものの話をつけてほしいということを伝えたんですけど、採用はされませんでした。

佐々木会長：なるほど。以前の経験があった方に、当時の様子を教えていただいたということですね。

審議会事務局：事務局より資料 3 の 33 ページ以降に基づき、「社会情勢の変化と市の課題（少子高齢化、気候変動等）」について追加説明を実施。本内容についての追加の質問・意見はなし。

審議会事務局：事務局より資料 5 に基づき、今後の進め方についての説明を実施。

【今後の進め方・「SOUND カード」ワークショップに関する感想】

松本副会長：相馬商工会議所女性会の松本と申します。意見とか疑問というよりは、感想ですが、私、先日の街づくりワークショップに参加させていただきました。この SOUND カードは最初どう使うのかちょっと分からなかったですが、これはとても良かったと思います。皆さん思い思いに自分の意見を、カードに沿ったその議題の内容によって、自分の言葉で伝えることができる。これはとても良かったなという風に感じました。色々な年代で、男性も女性も、高校生も含めて色々な方とお話しさせていただきました。席替えをしたりしてメンバーを替えて、そして前のグループでどういう話があったかというのを踏まえて、それをどう思うかという話をしたのですが、皆さんが一樣に大事にされていることというのが、『お互いの尊重』でした。お互いを尊重して、人を大事にしていくかという、私たちのグループのテーブルではそういう話になりました。人を尊重して人を大事にして、というのは、内容は違っても、行き着くところは結局そこなんですね、という話で終わりました。その中には、例えば夢語りのような案も出たのではないかなと想像しますが、あの場で出た皆さんの要望というのをどのように具体化していったら、今後の計画に活用されていくのかというのは、すごく楽しみだなという感じでした。

佐々木会長：ありがとうございます。実際に、先ほどの 10 年後の話ですね。実際に参加された方の状況をご紹介いただいたということで。市民の皆さんの意見、これらも市民の皆さんの意見ですが、どういう形で今回の計画に盛り込んでいくかということ、我々も考えていかなければいけないと思います。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。それでは、以上をもちまして、審議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

6. その他

審議会事務局：本日の全体を通して、皆様何かご意見等ございましたら、この場でお願いしたいと思いますよろしくお願いします。

高山委員：これだけの資料をちょっと持ち歩くのも大変ということがありますし、最近ペーパーレスの動きもある中で、事前に電子データでいただくということはどうでしょうか。

審議会事務局：今日お配りした資料につきましては、後ほどホームページで公開する予定ではあります。今後の会議資料についても、ペーパーではなくデータで欲しいというご要望でしょうか。

高山委員：できればそうですね。メールでお願いしたいです。

審議会事務局：データで欲しいという方は、次回以降、事前にデータで提供させていただきますので、ご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

7. 閉会